



## 秋季の飼養管理について

今年の牧草収穫時期は雨天が続き刈り遅れとなった草地が多く品質の低下が懸念されます。また、季節の変わり目は、牛が体調を崩しやすい時期です。より丁寧な観察と飼養管理を心がけましょう。

### □牧草品質の確認

牧草の成分分析を行い、飼料給与に活かしましょう。刈り遅れの場合は、蛋白質（CP）などの栄養素が低下し、繊維質（NDF）の割合が高まります。また、発酵品質不良の場合は、酪酸や、アンモニア態窒素の割合が高まりますので分析値を確認しましょう。

### □刈り遅れた牧草の給与は、ひと手間かけて

刈り遅れた牧草は牛の嗜好性が低くなり採食量に影響します。牧草の採食量を増やすため、できる範囲で次のような対策をとりましょう。

- ① 給与やエサ寄せ回数を増やす    ② 糖蜜などを添加(味付け)する
- ③ 自家産の良質な粗飼料や、ビートパルプ、大豆皮ペレットを併給する

### □秋の放牧管理は十分な観察を

秋は放牧地の草量が低下します。放牧地での採食量の不足は、乳牛の腹張りの観察やバルク乳量などで推測できます。また、舎飼いに移行する際は、急激な環境変化を避けることが大切です。次のような対策を取りましょう。

- ① 採食量不足が見込まれる場合は粗飼料を併給する
- ② 引き続き、牛舎の換気を良好に保ち、敷料を多めに投入し、牛床のクッション性を保つ。

### □こまめな敷料の交換

例年よりも湿度が高い日が多くなっています。湿度が高いと、牛床が乾きにくくなり、細菌が繁殖しやすくなります。さらに、夏季の暑熱ストレスにより免疫力が低下しているため乳房炎が発生しやすくなりますので、次のような対策をとりましょう。

- ① こまめに敷料を取り替える    ② 牛床環境衛生資材を散布する

当センターHP→「乳牛・飼料作物ほか」も  
ご参照ください。



「宗谷農業改良普及センター」で検索、または QR コードから